



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

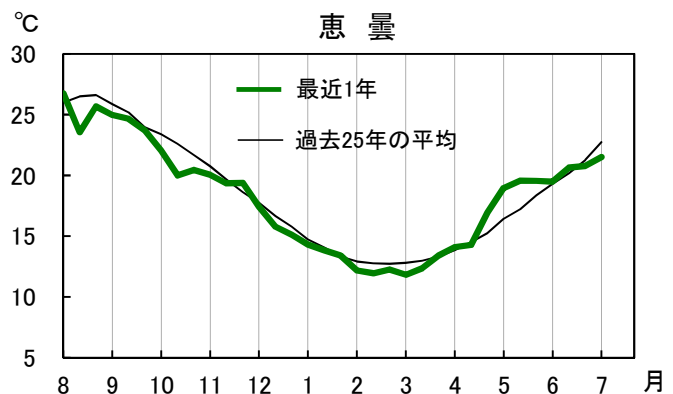
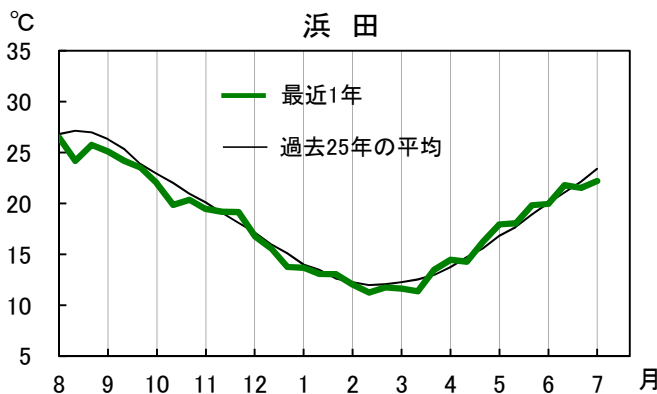
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

## 《6～7月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	21.1℃	0.0℃	平年並み
恵曇	20.3℃	-0.1℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では6月は上旬が「平年並み」、中旬が「やや高め」、下旬が「やや低め」と変動しました。一方、恵曇地区では6月は上・中・下旬とも「平年並み」で推移しました。7月に入り上旬時点で両地区とも「やや低め」で経過しています。



## 《6月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は11.4トンで平年並みとなりました。全漁獲量の内、主体であるマアジは321トンで平年並みでしたが、例年漁獲量の少ないサバ類が35トン漁獲されました。また、イワシ類やイカ類も例年より多く漁獲されました。西郷、浦郷地区ではマイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ94.4トン、59.6トンで平年を上回りました。全漁獲量の内、両区ともマイワシの漁獲量が多く、それぞれ3千～8千トンと平年の2～8倍の漁獲量となりました。

## 【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ（全体の55%）とケンサキイカ（全体の45%）が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は197kgで平年を上回りました。両種とも漁獲量は平年の2.1倍と好調でした。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は120kgで平年を上回りました。スルメイカの漁獲量は平年の3.4倍と好調でした。

## 【ばいかご漁業】

6月から始まった石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は35.1トン、1隻1航海当りの漁獲量は799kgで平年並みの水揚げとなりました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は29.6トン、1隻1航海当りの漁獲量は674kgで前年の8割の水揚げに留まりましたが、平年並みでした。銘柄「大」を主体に漁獲されています。

## 【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は1.7トンと平年の約1.7倍となりました。全漁獲量で見ると、主体となるシイラは29トンで平年の7割だったものの、例年シイラとともに漁獲されるヒラマサが21トンと平年の3.3倍の漁獲量となりました。

## 【定置網漁業】

石見地区でケンサキイカ、マアジ、イサキ主体の漁況で、1統当りでは主体であるマアジが平年並み、ケンサキイカが平年の2.8倍でしたが、ブリが平年の4割となり、全統の総漁獲量は104トンで平年並みとなりました。また、イサキが平年の20倍以上である3.1トン漁獲されました。出雲地区ではマアジ、ホソトビウオ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の7割だったものの、ホソトビウオ、サワラ類を含む多くの魚種が平年並みか平年を上回ったため、全統の総漁獲量は453トンで平年を上回りました。隠岐地区ではマアジ、サバ類、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の2倍、サバ類が10倍の18トンで全漁獲量の約7割を占め、全統の総漁獲量は179トンで平年を上回りました。

## 【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、サワラ類、イサキが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は22kgで平年を上回りました。石見地区でケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年並みでした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、スルメイカ、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は19kgで平年並みでした。全地区でイカ類が好調で、出雲・石見地区ではケンサキイカがそれぞれ平年の4.1倍・2.1倍、隠岐地区ではスルメイカが平年の2.0倍の漁獲がありました。

【平成 26 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE (1 隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	421 トン	80%	117%	11.4 トン	95%	114%	○
	西郷	マイワシ	8,684 トン	403%	295%	94.3 トン	438%	316%	◎
	浦郷	マイワシ	3,280 トン	378%	190%	59.6 トン	529%	231%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ・ケンサキイカ	22 トン	338%	211%	197kg	301%	239%	◎
	西郷	スルメイカ	28 トン	750%	339%	120kg	113%	147%	◎
ばいかご	大田管内	エッチュウバイ	42 トン	117%	126%	959kg	124%	143%	◎
しいら漬け	和江	シイラ	17 トン	141%	113%	2.1 トン	194%	205%	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ、イサキ	34 トン	220%	115%	1.2 トン	264%	147%	○
	美保関	マアジ、サワラ、ホソビウオ	161 トン	321%	159%	1.5 トン	305%	156%	◎
	浦郷	サバ類、マアジ	113 トン	346%	279%	4.2 トン	372%	291%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ	14 トン	172%	128%	24kg	144%	108%	○
	大社	イサキ、サワラ類、ケンサキイカ、ブリ	12 トン	107%	79%	17kg	91%	70%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、スルメイカ、マダイ	8 トン	118%	77%	32kg	120%	118%	◎

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg (ほぼ 0Kg) のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg (ほぼ 0Kg) のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg (ほぼ 0Kg) のものは平年比を－とした。

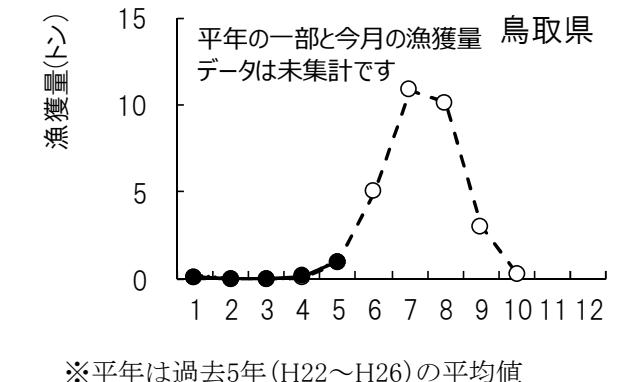
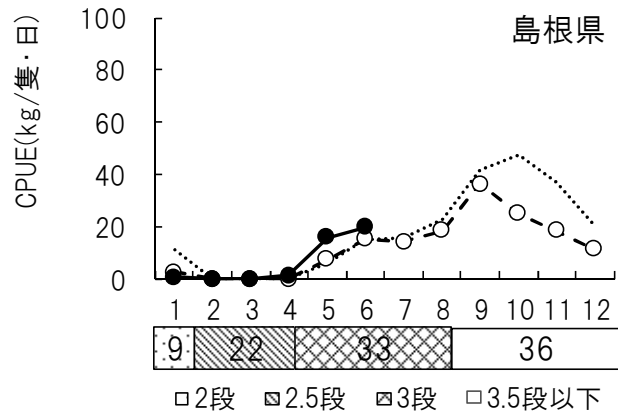
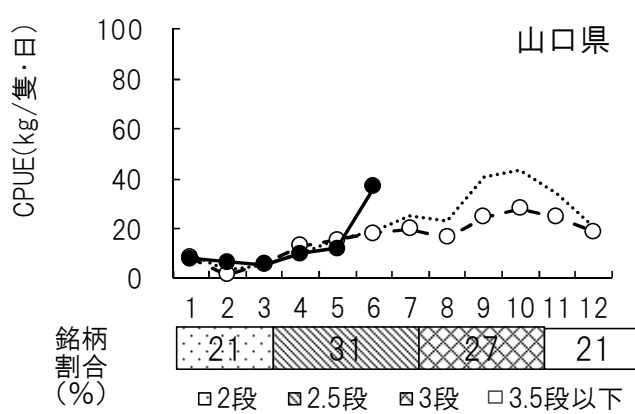
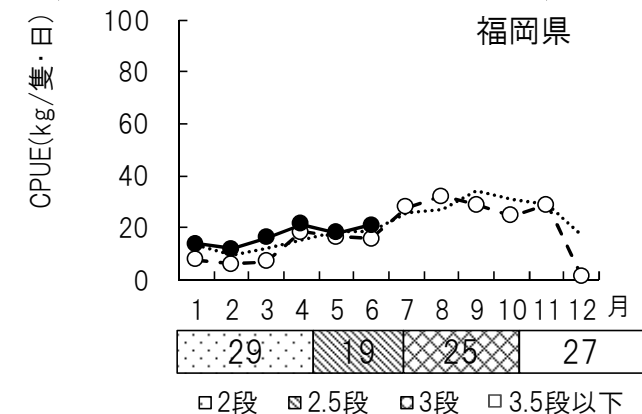
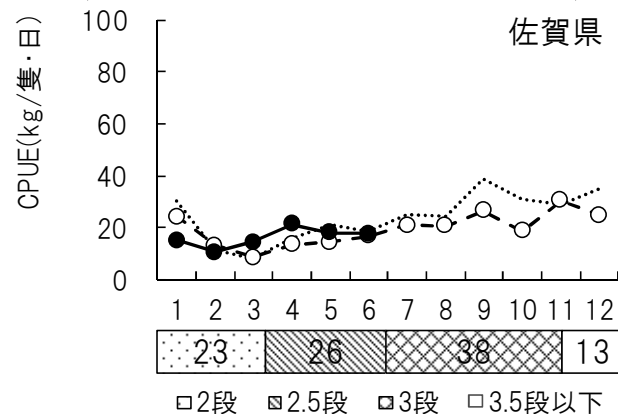
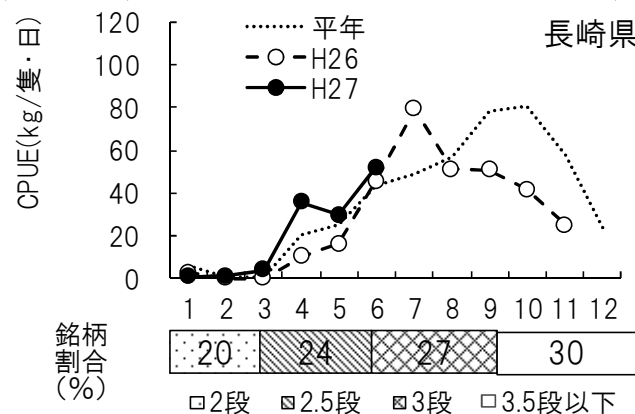
# 【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年7月17日

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

**I：6月のイカ釣り漁況** これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。  
 各県とも平年並み～平年を上回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	対馬標本漁協における6月の漁獲量は平年並みで前年を上回りました。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年並みでした(前年比113%、平年比90%)。	福岡県	代表港の漁獲量は前年比198%、平年比136%と好調でした。
山口県	代表2地区の漁獲量は前年・平年を大きく上回り、好漁でした(前年比328%、平年比201%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は45トンでした(前年比204%、平年比211%)。	鳥取県	5月までのケンサキイカの水揚げ量は前年を上回り、平年並みでした(前年比121%、平年比88%)。6月分の漁獲量については集計中です。



Ⅱ：7月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖観測は行っていません。	佐賀県	壱岐水道の底層水温は、20.2～20.7℃で 平年並みからやや低め、対馬東海道は 14.5～19.5℃でかなり低めから甚だ高 めでした。	福岡県	沖合域の底層水温は、15～16℃台とかな り低めから平年並みとなっています。
山口県	北緯35度以南の底層水温は13～19℃ で、見島沖では平年よりやや低め、それ以 外では平年並みでした。	島根県	今月は海洋観測データがありません。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は15℃前後 で、先月と変わらない値となっています。

底層の水温分布図  
 大きい数字：水温  
 小さい数字：水深

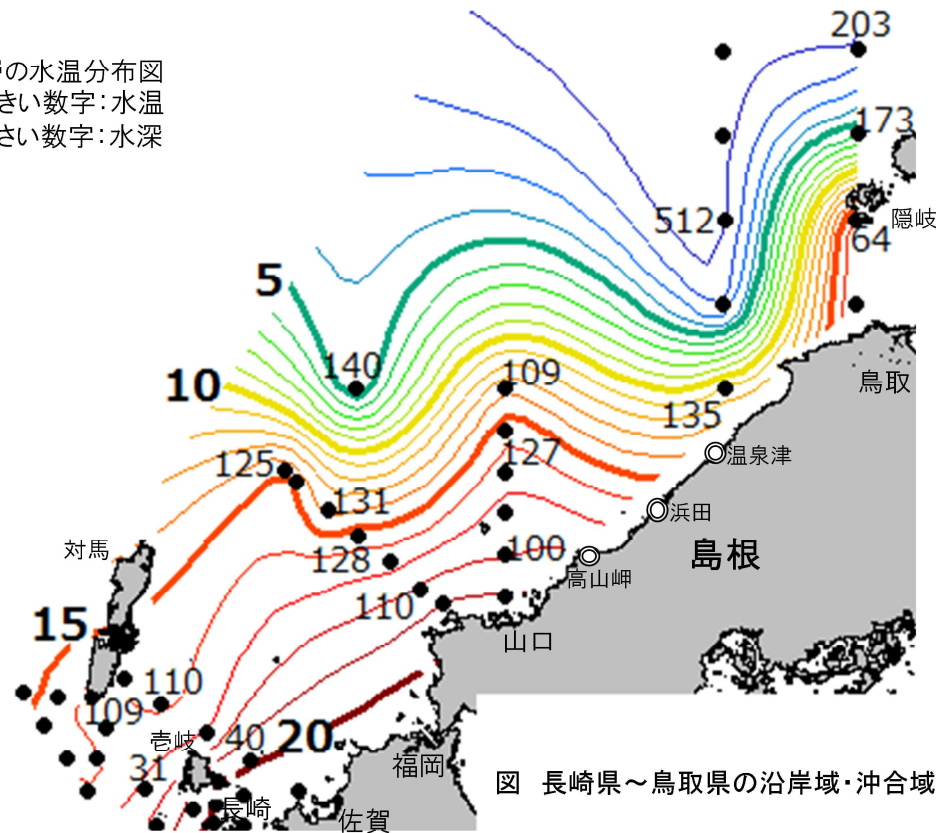


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図